

VII 授業科目の概要

[授業科目名] E B N特論		[授業方法] 講義	[授業担当者名] 北川元二、岡田希和子、 山田千佳子、早戸亮太郎
[単位数] 2	[必修・選択] 必修	[備考]	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【一般目標】 栄養科学の研究に必要な知識・技能・態度を修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的な研究の進め方を理解する。 ・栄養科学の研究における様々な分野の基本的な手法について理解する。 ・研究に必要な倫理指針について理解する。 ・研究を実践する上での安全指針について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>「人間栄養」、「臨床栄養」、「公衆栄養・栄養教育」、「食品機能・食品安全」の研究領域ごとに、栄養科学の基本的な研究手法を理解することによって、栄養科学の研究を推進するために必要な基本的な知識、技能、態度を修得する。</p>			
<p>学生に対する評価の方法</p> <p>課題に対する取り組み、レポートの内容、受講態度について評価する（受講態度 20%、他を 80%として評価）</p>			
<p>授業計画（回数ごとの内容等）</p> <p>（人間栄養領域）〔早戸〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 人間栄養学研究の基礎知識 2回 動物実験等の実施に関する基本指針 3回 人間栄養学研究に必要な研究手法 <p>（食品機能・食品安全）〔山田〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 4回 食品機能研究の基礎知識 5回 食品安全研究の基礎知識 6回 食品機能・食品安全研究に必要な研究手法 <p>（公衆栄養・栄養教育）〔岡田〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 7回 公衆栄養学・栄養教育の研究に必要な基礎知識 8回 公衆栄養学・栄養教育の研究に必要な調査研究法 9回 食育の研究手法 <p>（臨床栄養）〔北川〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 10回 文献検索法、データベースの利用法 11回 統計学（基礎） 12回 統計学（パラメトリック） 13回 統計学（ノンパラメトリック） 14回 疫学研究に関する倫理指針 15回 臨床研究に関する倫理指針 <p>※担当者の都合で授業の順序が入れ替わることがあります。</p>			
<p>使用教科書</p> <p>特に教科書は指定しない。テーマ毎に参考図書、関連ウェブサイトを示す。</p>			
<p>自己学習の内容等アドバイス</p> <p>研究の進め方に関する教科書を予習しておくこと。研究に関する倫理指針、安全指針をネットで検索し、読んでおくこと</p>			

[授業科目名] E B N演習		[授業方法] 演習	[授業担当者名] 北川元二、立花詠子、 山田千佳子、早戸亮太郎
[単位数] 2	[必修・選択] 必修	[備考]	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【一般目標】 栄養科学の研究に必要な基本的知識を理解した上で、研究を推進できる基本的能力を涵養する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養科学の研究に必要な代表的な英語論文を読解し、その内容を的確にプレゼンテーションできる。 ・ 研究に必要な倫理指針・安全指針に基づいた研究計画をたてることができる。 ・ 研究により得られたデータを、科学的・論理的に解析・考察できる。 ・ 研究に必要な英語力を修得する。 			
<p>授業の概要</p> <p>栄養科学の研究を推進するために必要な基本的な知識を習得した上で、実際に研究の一連の流れを理解する。栄養科学の研究の基礎となる英語論文を購読し、研究に必要な語学力を養う。</p>			
<p>学生に対する評価の方法</p> <p>課題に対する取り組み、レポートの内容について、①研究計画立案能力、②データ解析・考察能力、③英語論文読解力、等の修得度を中心に評価する。受講態度 20%、他を 80%として評価する。</p>			
<p>授業計画 (回数ごとの内容等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 論文検索、エビデンス評価 [北川] 2回 研究計画の立案法 [北川] 3回 データ解析 [北川] 4回 調査研究に必要な統計学演習 [北川] 5回 実験結果の解析に必要な統計学演習 [北川] 6回 論文考察 [北川] <p>(英文論文購読)</p> <ol style="list-style-type: none"> 7回 栄養生理学に関する英文論文演習 [早戸] 8回 栄養生化学に関する英文論文演習 [早戸] 9回 栄養病態生理に関する英文論文演習 [早戸] 10回 食品機能に関する英文論文演習 [山田] 11回 食品安全に関する英文論文演習 [山田] 12回 食物アレルギーに関する英文論文演習 [山田] 13回 臨床栄養学に関する英文論文演習 [立花] 14回 食教育に関する英文論文演習 [立花] 15回 食育に関する英文論文演習 [立花] <p>※担当者の都合で授業の順序が入れ替わることがあります。</p>			
<p>使用教科書</p> <p>特に教科書は指定しない。テーマ毎に参考図書、関連ウェブサイトを示す。</p>			
<p>自己学習の内容等アドバイス</p> <p>各学会の機関誌の投稿規定、投稿に関するガイドライン、Style Manual、統計学に関する教科書を予習しておくこと。</p>			

[] 基礎統計解析演習	演習	[] 下方浩史
[] 2	[] 選択	
<p>この科目ではフリーソフトの統計アプリである EZR を用いて栄養学研究に必要な統計知識を得て解析技術を習得し、基本的な統計解析が出来るようになることを到達目標にする。</p>		
<p>各自のノートパソコンにメニュー形式で容易に統計解析が可能な統計アプリ EZR をインストールし、実際に EZR を使いながら栄養疫学研究のための統計技術を修得する。演習問題を例に様々な統計手法をどのように適用し、結果を判断するのかを実践的にトレーニングする。</p>		
<p>受講態度(出席、発言、質問等)(60%)、プレゼンテーション等(40%)を総合的に評価する。</p>		
<p>第1回 Rの概要とインストール 第2回 データベースと EZR の基本操作 第3回 条件分岐と簡単な統計解析 第4回 欠損値の処理 第5回 データの傾向を知る 第6回 名義変数の解析 第7回 模擬データ提示と解析 第8回 模擬解析結果プレゼンテーション 第9回 サンプルサイズ 第10回 一元配置分散分析 第11回 3群以上の比較 第12回 傾向性の検定 第13回 相関と回帰 第14回 ロジスティック回帰の実際 第15回 ロジスティック回帰データ解析</p>		
<p>適宜資料を配布する。</p>		
<p>学習した内容を必ず復習する (各回 180 分)。演習問題を復習課題とする。</p>		

[]	応用統計解析演習	演習	[] 下方浩史
[]	[]		
2	選択		
<p>この科目ではフリーソフトの統計言語であるRと専用エディタのRstudioを用い、栄養学研究に必要な統計知識を得て解析技術を習得し、比較的高度な統計解析が出来るようになることを到達目標にする。最終的には実際の医学論文や栄養疫学研究情報の統計的記述を読みこなすことを目指す。</p>			
<p>各自のノートパソコンに統計言語Rをインストールし、実際にRスクリプトを書いて栄養学研究のための統計技術を取得する。</p>			
<p>受講態度(出席、発言、質問等)(60%)、プレゼンテーション等(40%)を総合的に評価する。</p>			
<p>第1回 RスクリプトおよびRマークダウンの概要とインストール 第2回 ファイルの入出力とデータ処理法 第3回 パイプ処理 第4回 Rスクリプトによる基礎統計処理 (連続変数) 第5回 Rスクリプトによる基礎統計処理 (カテゴリー変数) 第6回 ggplot2によるグラフの作成の基礎 第7回 ggplot2によるグラフの作成の応用 第8回 一般線形モデルと傾向性の検定 第9回 多重ロジスティック回帰モデル 第10回 生存分析 第11回 線形混合効果モデルと一般推定方程式モデル 第12回 一般化加法モデル(GAM および GAMM) 第13回 栄養データベースの利用法 第14回 模擬解析 第15回 模擬解析結果プレゼンテーション</p>			
<p>適宜資料を配布する。</p>			
<p>学習した内容を必ず復習する (各回 180 分)。演習問題を復習課題とする。</p>			

[授業科目名] アカデミック・ライティング		[授業方法] 講義・演習	[授業担当者名] 齋藤芳子
[単位数] 2	[必修・選択] 選択	[備考] 初回～第2回の授業で受講者と意見交換をしたうえで、確定版かつ詳細なシラバスを授業中に配布します。	
授業の到達目標及びテーマ 受講者のアカデミック・ライティング技能向上を目的とする授業です。アカデミック・ライティングとは学術的な著述のことです。著述プロセスの各段階における具体的なノウハウを理解すること、ノウハウを適用して著述の修正ができること、責任を持って自分の著述を仕上げられることを到達目標とします。アカデミック・ライティングに対する漠然とした苦手意識や戸惑いを解きほぐしていきましょう。			
授業の概要 アカデミック・ライティングには、形式や作法、問いの設定、文献探索、調査・開発、論理構成、文章表現、研究倫理といった様々な要素があります。受講者には、これらの要素を授業中のミニワークや最終レポート作成を通じて会得し、修士論文作成に役立てることが期待されます。また、意見を出し合うなど受講生間で学びを深めてもらいたいと考えています。			
学生に対する評価の方法 ミニワーク（70%）＋最終レポート（30%） 最終レポートの提出がない場合は「不可（F）」になります。			
授業計画（回数ごとの内容等） 第1回 イン트로ダクション：アカデミック・ライティングとは何か 第2回 論文の型 第3回 論理と論証 第4回 問いをたてる 第5回 アウトラインをつくる 第6回 先行文献を探索する 第7回 クリティカル・リーディング 第8回 調査の設計から実施まで（1）量的調査 第9回 調査の設計から実施まで（2）質的調査 第10回 論文における文章と図表 第11回 引用と参照 第12回 アウトラインを充実させる 第13回 論文として整形する 第14回 要旨を書く 第15回 修士論文までを見通す			
使用教科書 教科書は指定せず、適宜プリントを配布します。			
自己学習の内容等アドバイス 以下の書籍を参考にしてください。 <ul style="list-style-type: none"> ● 木下是雄（1981）『理科系の作文技術』中公新書 ● 戸田山和久（2012）『新版 論文の教室－レポートから卒論まで』NHK出版 ● 盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣ブックス その他、授業の中でも随時紹介していきます。			